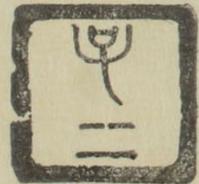


旅寝せし時。山水とある。小。唐詩。画。瀟のるに。遊
 娘。小。似とある。法外。吉田の境。又。出。ま。ば。景。を。気
 遊ユウ。微ビ。と。く。邦。國。は。く。風。お。り。し。と。を。せ。る。和。詩
 也。唐。詩。よ。及。び。と。い。つ。り。日。本。は。和。詩。は。家ホと。と。
 風。を。け。し。ば。な。こ。も。あ。る。ん。と。和。人。唐。の。西。遊。よ。好。ん。で。
 和。を。作。ら。む。唐。詩。の。傳ワカガキも。か。ん。し。漢。人。活。字。の。名。の。
 詩。は。然。し。ち。も。白。林。の。説。が。あ。き。名。人。な。ら。ば。南。徽
 あり。と。い。れ。ば。風。景。を。述。べ。と。い。ふ。ま。に。ち。う。ら。ん。り。
 和。の。傳。文。は。一。字。一。の。る。に。ち。も。尔。系。は。始。め。て。風
 や。と。し。て。歌。は。近。し。和。人。漢。文。を。書。し。て。唐。人。に
 見。せ。る。所。に。と。い。ふ。味。は。和。の。ま。あ。は。と。か。ま。り。や。

是も。あ。ま。の。る。よ。も。尔。系。は。合。め。く。等。び。は。な。し。た。和。と
 見。し。り。浦。く。烟。指。み。入。松。と。い。ふ。和。を。も。あ。り。り。
 芙蓉。即。ち。人。家。と。い。ふ。白。い。も。尔。葉。ハ。ハ。い。な。う。は。絶。句
 以。考。る。る。に。他。者。才。二。の。句。に。神。力。と。費ツイヤし。揚ハシを
 爛タラカと。と。い。ふ。も。子。才。四。句。の。二。の。句。は。棄。け
 たり。也。音。の。辨。代。に。ある。と。い。ふ。ど。を。序。歌
 曲。流。れ。わ。り。も。か。り。も。と。い。ふ。也。を。と。い。ふ。歌。の。ほ。と
 ち。も。り。ま。せ。し。序。は。結。め。し。と。歌。の。つ。つ。で。也。下
 の。ま。ま。に。歌。を。決。し。と。の。せ。ま。ま。は。曲。は。つ。け。く
 人。に。和。白。が。せ。下。の。せ。ま。ま。と。い。ひ。流。と。之。唐。詩。也。
 序。歌。曲。流。の。口。つ。を。り。序。は。つ。ひ。韻。は。決。し。

この句は曲なつげく。まがぐーの原もや。まをま。
こみ句と替むるといふと。是れ。ゆ人の。ゆんせんと
とす原もつに持歌^{ヨク}なり。歌人の。秀子清人とあるは
もつに秀子歌のあり。やうお能得よる人の。ゆあゆせ
が原あり。人歌のわさ。ゆあをるるに神のめ。
じ。作牙^{シラビ}調も。鐘子歌^{シラビ}が耳あまむらと。若今
のせまぐくあま。ゆあのため。鐘子歌^{シラビ}か々のよ
あひす原のや。げ絶句^{シラビ}の如^{シラビ}に。文を言句のゆきを
いりど。文をいゆとるる人の。只他者の持を
搜^{サガ}うが。ゆあゆ味と。ゆ文を述く。ゆあ。ゆ
ゆとる人の。ゆあゆ。ゆ他牙四折新九月。

五老井許六字菊阿佛。とづううううとけく
書く



凡例

- 一 三游詩絶句、唐の代の詩也。撰者、周弼字、伯弼。汶陽の竹人。よく、善竹以画り。東平の人。宋の末、南渡以後の人也。宋の理宗、淳祐十年庚戌秋八月、選、拙集。
- 一 序文、二人乃他也。紫陽山、盧叟方回、増任の序者。増任、同他也。東嘉、嘉、裴庚、字、子昌。
- 一 本注、高安、山、玉、書記、秋、天、隱、の他也。
- 一 詩の解、七、絶句、全篇、百、七、十、四、首、他、者、七、七、人。
- 一 故事、本、層、の、徑、委、細、よ、の、セ、ど、也。華、書、詩、註、り、

和刻三游詩卷之一

五老井菊何述

實據

實據、其、形、ある、也、と、云、虚、心、と、云、形、なき、也、へ、據、舎、く、又、續、也、二、四、の、句、虚、心、と、云、の、句、云、と、云、是、と、實、據、の、辨、し、と、云

華清宮

瀋山、文、小、あり、殿、閣、の、名、
玄、不、建、之

杜常

杜、常、の、宋、人、なり、
姓名、不、詳

新畫、江南、數十、種

曉風、殘月、入、華、清

江南の、境、り、ち、く、あり、と、如、此、の、人、語、り、て、ま、り、一、只、南、と、云、る、一、數、十、種、と、云、る、と、
名、の、一、數、十、種、と、云、る、と、云、下、日、を、主、余、と、云、り、曉、風、殘、月、と、云、る、は、一、日、の、終、り、

胡、元、瓘、上、の、風、急

秋、入、長、楊、作、面、如、月

胡、元、瓘、昔、に、瀋、山、に、あり、と、云、元、瓘、老、翁、の、名、也、と、云、也、玄、宗、仙、術、を、好、み、愛、園、也、
亦、の、を、君、と、云、る、の、ひ、と、云、氏、と、云、長、楊、宮、始、自、建、之、の、ら、漢、武、帝、三、岳、之、感、陽、
後、の、長、安、と、改、む、華、清、と、長、楊、と、お、云、る、二、百、余、里、始、自、漢、武、玄、宗、に、
仙、術、を、好、み、月、を、相、束、る、の、と、云、い

詩名、十里、竹、里、南、の、方、に、む、こ、こ、此、瀋、山、あり、と、云、る、只、の、り、と、云、り

お、の、ひ、と、云、る、一、日、の、け、の、終、り、と、云、秋、の、日、や、と、云、る、果、て、雪、の、名

くらり消ゆるされど人の妬のほりまけるよき。つゆは
月よどみの疑いもりく。お後よさつる病もかゝ。其
方の秋き。一門の悔も。腰帯の地を。ふ安の林。おま
折橋よ。やとまふらもなかり。おびく。かゝる。唐も。
大和も。女のな情。うなかくの。こゝ。女と。おの。村も。
薛能。が。骨折。け。こ。ら。の。物。心。

帰雁

錢起 吳興の人。天宝中。李進士。
終唐功臣中。

瀟湘何事等東園 少碧沙ぬあをる昔

瀟湘二つのいの名瀟湘八京平海落一の影あり馬のるをる東の他
どうぬ美瀟湘の他長安の他二記あり長安の流り。

二十五六結強也月 不勝清怨却花来

二十五六強の強う人日本をく人なり 不勝の怨うらぬ心来るあらん二流の
魚のうらんとよむなり

詩云 今や紀の原伊勢の二。麦は金つる旅安。燕の
おとつまぶらけて。うき三載。語はゆらん。熊野乃
奥おろるうつ波。お智のまは。漸くと。白雲。まは。若
およせき。使らる。つま。空田の浦。お。整。お。伊。海。を。白。雲。
雲の。お。し。い。海。吹。ま。ら。し。よ。翠。華。の。危。う。松。凡。う。名。月。よ。教
わ。げ。て。お。心。人。の。爪。音。う。琴。柱。よ。あ。ま。一。馬。の。ひ。も。名。
と。り。ひ。ん。ら。う。ば。二。う。い。夜。に。花。来。ら。せ。

名賈媽 賈母字は浪仙。范陽の人。来。該。陽。韓。愈。教。つ。文。と。他。う。
む。お。お。海。屠。名。三。葉。の。ら。ま。は。原。文。字。を。土。後。漢。并。肉。死。

張籍 字。文。昂。和。州。烏。江。の。人。登。進。士。先。韓。愈。を。め。て。お。園。子。惜。主。
歴。必。必。主。客。之。中。の。終。園。子。司。業。

僧房著款花 出寺吟行日已斜

詩念 勤仕も云の為ねと。長やふとのいひ。もうかき
 書子。兄弟ハナシはもあつゝ捨て。東西に奔走し。却都乃
 任指さしけおとす。誰か我は松本と。人々を尋ねの
 小松原。往來の袖をゆりわけて。笠は入の足知ご。
 戸めやう。友を之。皆一舟場の茶店をけり。松燒一車
 よ碁をき。越へて。新末の長。波かこら。粒はいさ。船と
 延次。まが。あつゝ。近江のね。うら。油。在所。あつゝ。の目
 ま。ま。い。の。い。る。ら。わ。若。も。あ。つ。つ。才。あ。つ。つ。定。め。く
 放。遣。り。て。お。淡。よ。書。さん。是。の。こ。の。不。然。り。若。家。乃
 障。とな。ふ。同。を。あ。に。き。こ。ん。ん。ま。ま。や。さ。つ。の。千
 め。る。に。と。お。き。短。い。と。り。付。て。お。む。ぞ。く。と。別。ま。さ。り。

類 崔太女士林亭

崔太女を信ち小む也士ハ
一信者よかき

五 維

字、摩詰太原の人開元初年十九歳して進士擢第
之より過尚書右丞三監

緑樹重陰蓋四隣

青苔日厚自無塵

唐ハ世唐と兼る市志ハ
なつゝのこら

科頭 箕浦松下

白眼看他世上人

科頭ハ文字張儀ガ信ち出ツ味ダツの極々まをゆらつぐの量ハ信と云
茶谷也友ののく箕浦ハみのの形にまこり飛神他の世ハ也士の目よりハ
約市ハ別世界と云也

詩念 帯盤若葉の菱おき。陰森としておまげす。
 釋のわら。色川音は帯て涼しく。時々の一声ハ雨乃近
 きは合心。同くしほき若の吹ば風の編戸に竹お顔。
 遠く市朝と隔る。おまげ。延へて。若坊。ま。の。ま。り。よ

けきんはくまき。つごじうかして。もて。せは。立橋。よ。研。
ふん。之。也。ま。と。し。あ。り。て。松の本。ま。は。詠。居。人。多。く
自他の。月。の。は。悦。く。我。の。火。意。の。り。け。り。と。て。目。は。ぬ。さ。り
急。い。て。ぐ。居。り。る。後。に。せ。は。捨。山。林。は。我。る。人。は。少。く
世。は。捨。ら。る。世。の。ま。を。ね。ほ。り。き。

楓樹夜泊

同無集より。依。在。楓。樹。夜。泊。楓。樹。在。蘇。州。吳。縣。西。有。楓。樹。故。名。づ。く。張。繼。の。地。張。繼。の。故。宅。を。變。じ。て。寺。と。す。故。に。他。の。寺。も。後。再。此。楓。樹。の。行。り。

張繼

字。懿。孫。襄。陽。の。人。也。登。天。寶。と。士。也。

月落烏啼霜滿天

江楓漁火對愁眠

楓樹夜泊の第一句と述ぶ

姑蘇城外寒山寺

夜半鐘聲到客船

姑蘇城。蘇州の城也。山。楓。樹。寺。と。云。云。山。拾。得。と。云。云。也。の。名。封。樹。寺。と。書。し。鐘。の。聲。を。半。鐘。と。し。寺。前。の。茶。店。に。村。と。云。類。と。云。云。張。繼。の。詩。對。一。の。名。之。水。聲。寺。の。鐘。は。亦。の。對。詩。寺。と。書。さ。る。は。あ。ら。う。

詩意

船の夜泊の楓樹。空のうき夜の波の底。波列衣

むとを。ま。か。さ。り。て。寝。ん。と。渡。よ。を。そ。と。う。く。く。の。舟。懸。
近付。づ。り。に。い。ま。る。の。舟。來。よ。待。倦。る。門。を。あ。ら。つ。き。
階。の。裏。ま。く。ち。お。う。に。回。念。波。の。ま。け。知。ら。ぬ。
ゆ。り。て。人。は。眠。り。ぬ。只。獨。寝。の。名。を。く。月。あ。り。て。江。流。流。
生。田。の。森。の。村。鳥。聲。の。お。の。の。け。の。く。海。土。の。の。り。り
火。の。遠。い。夜。半。の。多。葉。鈴。を。も。と。せ。と。こ。く。情。の。こ。こ
眠。り。松。の。月。の。一。粒。を。照。ら。す。つ。く。鐘。の。聲。波。の。花。は
傳。い。來。て。舟。の。邊。に。押。か。し。斗。る。

贈殷亮

殷亮ハ陳郡の人仕へて
後刺史

戴叔倫

字ハ幼公潤州金壇の人事曹王表在幕府
德宗建中年中表弟及と曹王自軍討弟叔倫
杭州刺史ありは容安経累代還卒道中

日く河を見し流

傷春未已復悲秋

長倫ハ幕府より多く光陰の移り愛るまをわねむ

山中舊宅す人住

來往風塵去白頭

旧宅ハ長倫が旧宅殷亮が旧宅と見るハわづらへ
饒州薦福寺の下にあり凡垂ハ浮世のり月ハ付なき
殷亮と云ふ全篇ハ去と云一字又そそ

詩云世の中をばくく能く人ハ何波のつらハ波風

もまどといふ。いまいふ。持せざらぬ。又いふ

ひふ愁のまき。徳純よりうれ。橋の級ハ繫かろく

人ら常よむことハわづらひた。いまのまに長まる。源泰

の塩梅ハ笑ふく月日と通る。くハ傳へん。明日ハ傳へん。
あつらふくく水も。又あつらふ。されど。在所の家習ハ。海
くの流氷ハ他へ。さやせゆ。かへつらま。とあり。自由
に。願ハ凡て釣盤ハ白髪と交む。よき云。蓮の流氷ハ
え礼。後ハ江戸の土ハ。あつらひに。まらぬ。あつらひ。
浮世のハの。あつらひ。

湘南即事

湘南ハ属都。長倫幕府の時ハ他へ
名ハ別具ハ眼あるを述

盧橘花開楓葉衰

出門何處又逢京師

盧橘説多一本は枇杷と云く園よりく別名ハを。け。さ。ひ。多
あつらふ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。

沅湘日暮東流去

不爾愁人任少時

沅湘二水の名。中流ハあつらひハ他へ一人の。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
の。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。

の徳をとくをとくくく唐中書とれた人の習さうくして今やうは群をむり
沈流ちんりゅう去こくこ年ねん休やすんでて慈人のあめめよよままううどどとと後のちはは改かりりどどとと流りゅう
去こくこううららよよくくああららくく他たるる
是こをを古こ凡ふんととままるる

詩意 入る人もなき枕木の花。臨造の村は壘垣なり。
山は楓。里はてこころよく紅葉とせどことや。人の跡ある
こそなきはまき。何れもをけまの物ハカタは流りゅう浪なみ。田舎
ままううししひひよよままああははららううくくああひひ。秋のやうもそそまかかく。
何れを信しん信しんのちぢまま川。只ささくくままハハ絆絆よよらら。岩の白はく池
ままううくくけけ。ままああははららるる川せんはは音おと。ああううもも本ほんのの水みづよよら
何なにくく。流りゅうくく。くくくく。又またにに物ものははああままととははし。
かかのの字じののああひひののああははららううくくややららくくかかここああははららうう

送齋山人

齋山人は借三伴仙といふ名を
取つて山人といふなり

韓翃

字は君平南陽の人天宝中中書令の
韓翃といふ人

香帶事仙人白老云

揮頭飯法又家風

白老云ハ勢組が才子が傳抱朴子まがづりといふ仙人といふと云ハ赤松子まがづりて
云松子ハ白老云が才子こそ同ハ列子まがづりなり自由をこころをさす
の傳はさす我の我の字此は凡の凡の字
まがづり

紫門流水依然在

一沿さる山萬木中

依然ハかりくま西乃山人が
位西の景色と云

詩意 道えといふまるとき聖の教と。世成り沿山と

人といつど中くの秋の近けれど。我も心こころ里さとよよくくとと
て。深山深山ににささももりりくく。果はのは枝えだはは観かん。揮揮頭頭錫錫
びびもも。苔こけのの細こ乃の日ひけけ入いくく。ちちちちはは清きよきき松しょう梅ばい。巖いわ山さん
ををままくく庭てい梅ばい花はなよよううみみのの友ともももねねしし。ああむむくくににああまま

に疎れる妻のまゝ一樹の花散るらん。

竹枝詞

本注よ又「しり」をさひめと云ふ所コキリコを和らう
と云ふと云はれしコキリコのみを「古」をさう唱ふるらん
李涉 李涉之が見し初め備後守山 惠宗の時仕友とのち
大子侍士とのみ自ら首漢女 才子侍は清漢子と云

十二傳歌月秋夜

十二傳ハ在夔州巫山縣之北瀕ハ在夔州之峡低ハ月の落ると云子規ハ
不如飯と傳 蜀の詩李涉の初る

孤舟一夜東飯客

泣向春風 建漢

建漢ハ在武陵建寧府ハ在李涉が故よりゆくおつた飯所之建漢
をさうして流るふまゝと云ふ一流ハ山に山に流る所と好むはるふと云ふ好
才子侍はつづきにらんらん 飯に合く
飯所の宿集一巻なり

詩意

歌巻の中納言ハ罷かくて碓石の月と云ふ

とハ歌あつて是ハ又引かして流るのつとに大傳也。
只かりそめのた遠よ。非昔の大飯初はまゝ。波流遠

に立寄る。は年月のうき住居。別まといれどかかして。
あふんかどなりきりしらん。吾妻がすむ東傳か。
あつて一高松ハ流る雲。只あつめの一飯ハ。月が飯所らん
ねそぎは涙か。く構らん。さうして寝られぬ妻の
風。曉を。一桿のま。こまはざり風。右左風。は。や
か勝なり。出とつらん。

青山館聽子規

青山ハ在孫郭西漢水志者故云云

寶常

字ハ中野 披風平陵人 尤格也 叔尚ガ子也 峇廣陵 漢書
子二十ののら進官 歴朝 夢江 枕四列 刺史 堂唐中
園子 祭酒 一 治仕 一 卒と
贈 越列 於 叔尚

林之寒、條去、聽、稀

斷猿今夕、瀟、沅、水

楚塞ハ南方のたづまと云ふハ暖風をさすらん 四支よしやく流るゆへに李涉
時多きれは事と云ふ 猿ハ 断猿の猿と云ふ 強くかかると猿ハ 断猿ハ 断猿

巴東の二決つひに表後りり子親をく月猪の
かろしきと云は

雲埋老樹か山裏

彷彿子声一夜花

若山にち日の宗色を述、彷彿ハさしにうるとしむ
こゝぬ山をくさし

詩意

おと暮のそらおまの風。古、暖よ葉肥く。ゆきの
山おけ多。お月のころらひまし。年々寝るん乃
底の山。岩たこしひの猪の声。名を譲るけ夕。かけ
活よ登ど。心痛の男。只さくぬる。猪らも。海山
片よ袖さし。雲ハ約客の心。埋む。松も。一
丁声の。木。山。おれと。只。子。声。ハ。彷彿。り。

長慶春

長慶ハ唐の穆宗の年号。穆宗ハ憲宗
才の子

徐凝

徐凝ハ睦州の人。有詩名。詩集一巻
つばきに才子留まらる

山頭水色落荒烟

遠客新愁長苦年

穆宗在位四年。陳弘士に教さる。乱さし。けし。睦州。よ。か。し。山。故。よ。遠。客。と。云
君。名。を。と。く。ま。る。の。名。

才上あ芳仍病酒

大枕窓下宵花眠

あ。芳。ハ。あ。後。の。芳。病。て。ほ。と。禁。ど。大。枕。ハ。宿。後。大。枕。之。年。と。と。く。乱。と
さ。し。け。し。思。和。の。化。

詩意

才上に病の松として。東も。春。ど。あ。の。名。
うとく。泳。ま。て。長。苦。山。多。成。定。ぬ。る。若。芳。年。立。留。ま
ど。母。名。ぬ。病。の。こ。ぞ。名。を。保。酒。に。か。し。心。は。猪。の。
葉。よ。疲。て。目。と。送。る。名。を。ま。ま。水。ぬ。枕。の。意。お。し
記。く。何。の。碑。の。色。見。る。よ。つ。け。し。う。と。や。り。と。花。よ
宵。き。く。一。眠。り。酒。ハ。胡。蝶。の。夢。を。見。す。

文句二首

文句。注。前。ハ。あ。後。首。杜。牧。が。化。し。と。云。況。け。り。と。云。う。ぬ
且。建。文。句。の。留。ま。る。篇。あり。後。首。不。足。強。し。

